

有限会社 金川牧場

■ フロンティアスピリッツで企業の酪農経営を実現！



〈法人の概要〉

所在地: 千059-1434 安平町早来富岡 316 番地

代表者: 代表取締役 金川幹司

構成員: 5 名 (構成農家 4 戸)

役員: 5 名 常時雇用者: 10 名

設立: 昭和 41 年 11 月 資本金: 2,000 万円

事業内容: 酪農／黒毛和牛受精卵生産販売

牧草 130ha、デントコーン 45ha、乳用経産牛 210 頭、
乳用育成牛 100 頭、年間生乳生産量 1,740t、
黒毛和牛繁殖牛 55 頭、黒毛和牛育成牛 45 頭
(H22 年)

経営面積: 175ha

売上高: 2 億 5,400 万円 (H22 年)

電話: 0145-22-2087 FAX: 0145-22-4024

URL: <http://www.phoenix-c.or.jp/kanagawa/>

E-mail: kanagawa@phoenix-c.or.jp

〈法人のあゆみ〉

- 昭和 41 年 家族で有限会社金川牧場を設立
- 平成 3 年 第一次の酪農拡大計画で、フリーストール牛舎、ミルキングパーラーを設立
- 6 年 家畜人工授精所の知事許可取得、牛の受精卵生産・販売事業を開始
- 8 年 第二次酪農拡大計画で、フリーバーン牛舎設立、合計で 300 頭搾乳体制確立
- 9 年 食品製造残渣のビール粕、オカラ、パイン殻を自給飼料と混合し給与 (TMR)
- 14 年 攪拌醗酵式堆肥舎 (醗酵槽 4 槽、国分式攪拌機)、戻し堆肥を敷料に使用

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・昭和 24 年、金川幹司氏が帯広農業専門学校 (現帯広畜産大) 酪農学科卒業と同時に早来に入植した。
- ・昭和 41 年に農林中金の直貸モデルとしての融資を受けるために、企業の酪農経営を目指し法人設立した。
- ・昭和 42 年に搾乳牛 45 頭で生乳出荷乳量 236t を記録し、全道生乳生産者多量出荷番付で全道 1 位となる。
- ・昭和 61 年に長男、62 年に次男、平成 8 年に長女が経営に参画し、構成農家 4 戸となる。
- ・平成 6 年から家畜人工授精所の知事許可取得し、優良希少精液や受精卵、受精卵受胎牛の販売を手がける。

〈トピックス〉

- ・代表者の金川幹司氏は、昭和 47 年に北海道指導農業士認定、平成 4 年から北海道酪農協会会長 (平成 22 年まで)、平成 19 年から酪農学園大学副理事長 (平成 22 年まで) など要職を歴任。
- ・地域のリーダーとして、生産者の組織化及び青年農業者の育成と国際交流への貢献と、受精卵移植法を活用した乳牛と肉用牛の改良増殖による企業の経営の確立の功績によって、平成 15 年秋に「旭日小綬章」を受章、平成 21 年に大日本農会農事功労表彰の「紫白綬有功賞」を受賞。



〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・各部門間での連携と部門責任制により、生産性向上、コスト低減を図っている。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・法人経営の場合、経営状態が数字で明確に把握できるため、経営管理しやすい。（個人経営はどんぶり勘定になりやすい。）
- ・デメリットは特にない。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・社員の健康と安全管理
社員一同が常に健康でいること、及び健康でいられるための安全管理が重要。
- ・資本の回転率を良くする。
農業は、資本の回転率が悪いが、そのことを当たり前と思わずに回転率を上げていくことが必要。例えば、土地を購入した場合には、すぐにその土地が生産できる状態にするなどの工夫。



〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・法人化で経営状況を構成員みんなで把握することで、明確な経営課題と対策を共有でき、次なる経営発展へ繋がられます。また、その時代ごとの状況に合わせた対応が可能になると思います。
- ・何ごとにも創意工夫が大切です。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・牛の繁殖は金川牧場での人工授精。所有する黒毛和牛のうち約 40 頭は採卵用で、優良希少精液や受精卵、受精卵受胎牛の販売を行っている。
- ・昭和 54 年からコンピューターを導入し、財務、税務、庶務（計数管理）の各コンピューターを社内ネットワークでリンクしている。また、独自にソフト開発し、飼養管理、繁殖管理などに活用。発情発見システムや繁殖センサーも導入し、徹底した繁殖管理を行っている。
- ・敷料には、おがくずと堆肥を用い、牛の感染症予防と糞尿処理量を減らしている。また、堆肥についても堆肥発酵システムを導入した大型堆肥舎で自家製造している。
- ・平成 10 年から乳房炎予防を目的として 3 回搾乳を実施している。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・まずは円滑な経営継承が目標である。

〈視察等の受入〉

口蹄疫のバイオセキュリティを考慮した上で、詳細については要相談。
連絡先：0145-22-2087（担当：金川幹夫）